



- ふくい“的”な“適”応で暮らしをもっと豊かに -

FUKUTEKI



「日本紅葉の名所100選」に選出されている九頭竜湖（大野市）

台風による災害に備える

地球温暖化は、台風にも影響を及ぼすと予測されています
台風による浸水や土砂災害への備えを知り、災害リスクを減らしましょう

温暖化は台風にも影響を及ぼす？

地球温暖化の影響により、日本付近では台風が接近する頻度（存在頻度）や台風接近時の降水量が増すと予測されています。

気象庁が公表した「日本の気候変動2025」によると、1980年から2019年までの40年間の観測データから、台風が日本の太平洋側に接近する頻度は、後半の20年間で前半の約1.5倍に増加していることが報告されています。また、福井県で観測された「1時間に30 mmを超える激しい雨」の回数も、すべてが台風によるものではないものの、最近10年間の平均発生回数は1980年頃と比べて増加しています。

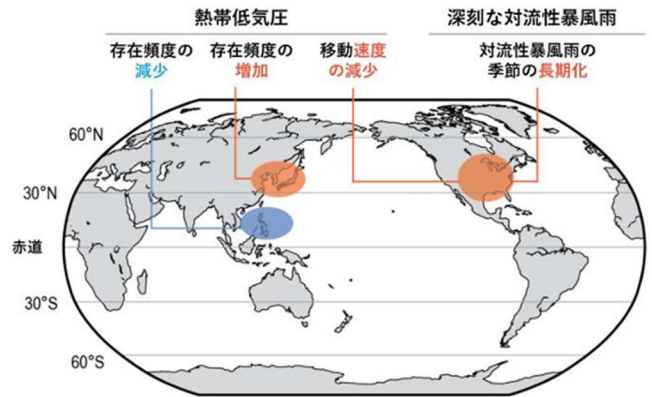
将来的には、台風により、浸水や土砂災害、洪水などの災害リスクがさらに高まることが予想されます。私たちは、こうした災害リスクの増加に対して、適応していくことが求められています。

キキクルを活用しよう！

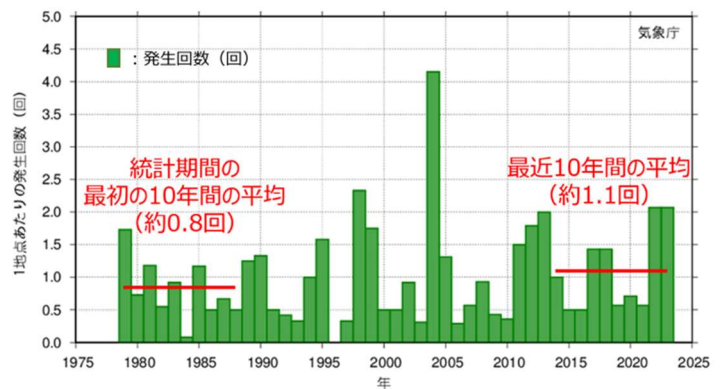
浸水や土砂災害などの災害から命を守るためには、「事前の備え」と「早めの避難」が重要です。そのためのサポートツールの一つとして、「キキクル（危険度分布）」があります。

キキクルは、気象庁のホームページで公開されている情報で、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで、迫っているかを地図上で視覚的に確認することができます。テレビやラジオなどで注意報や警報が発表され、大雨による災害の恐れがあるときは、キキクルを活用して危険度を確認しましょう。大雨による土砂災害の危険度は「土砂キキクル」、短時間の強雨による浸水害の危険度は「浸水キキクル」、河川の洪水災害の危険度は「洪水キキクル」で、確認することができます。

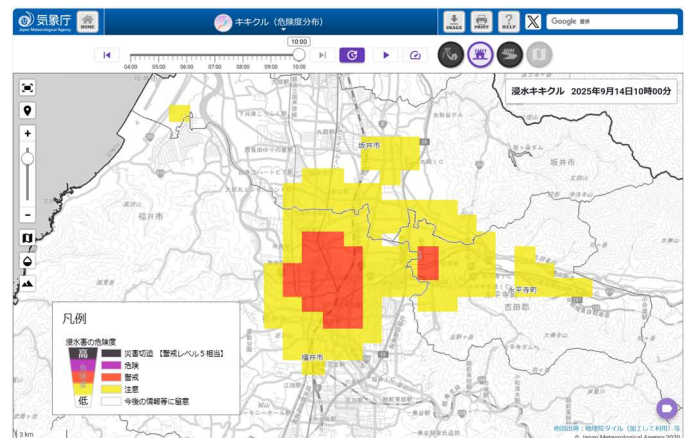
災害から自分自身や大切な人の命を守るためには、周囲がまだ安全なうちに早めに避難することが大切です。



IPCC第6次評価報告書で示された熱帯低気圧の過去と将来の変化に関する見解（出典：気象庁「日本の気候変動2025」）



福井県の1時間降水量30 mm以上の発生回数
（出典：気象庁「福井県の気候変動」）



気象庁の「キキクル（危険度分布）」



取組紹介: 福井工業大学 笠井 研究室

雨をためて使うのが普通の社会へ！

福井工業大学 笠井研究室では、今後深刻化する気候変動や災害への対策として
雨水利用に関する技術・製品開発、普及・啓発活動を広く国内外で展開しています。

流せば洪水、溜めれば資源

全ての淡水の源は「雨」。水道の水も元は雨です。一般的に雨はキタナイと思われがちですが、実は本降りの雨は蒸留水に近い非常にキレイな水です。今後ますます深刻化する気候変動により、今まで以上に豪雨や渇水被害の可能性が高まる中、雨水利用は、常時から雨水を水資源化して生活水の安定的な確保に繋がるものと期待されます。しかしながら、雨水は現状、不要物として下水に捨てられています。そのため、豪雨が降ると下水への突発的な雨の流入によって洪水（内水氾濫）が発生します。雨水タンクに雨を溜めることは洪水（内水氾濫）を緩和し、今後頻発が予想される洪水リスクの低減にも役立ちます。

災害への備え

近年、豪雨による浸水や断水などの被害が各地で頻発しています。日常的に雨水利用することで、非常時の生活水の確保にもつながります。人が生活するには、飲食以外にもトイレ洗浄や手洗いなどさまざまな用途の水が多量に必要になります。市場には多くの雨水タンクが販売されています。見た目だけでなく、雨水タンクがもつ機能にも注目して選んでみてください。



- ㊦ 国内初壁掛式トイレ洗浄対応雨水タンク「Pure EDEN」（自己洗浄機能に加え、高低差を活かした無動力給水で停電時も安心）
- ㊦ 開発者の笠井教授



GOOD DESIGN AWARD 2019 受賞

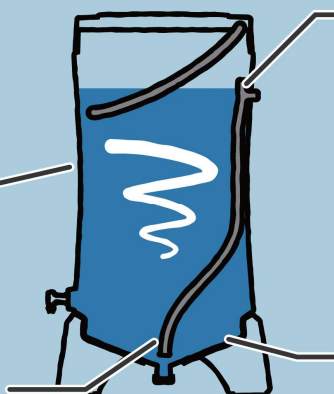
自己洗浄機能を備えた家庭用雨水タンク「Rain Harvest」

雨の勢いで いろんな仕掛けが働く



強い雨のときに溜まっているゴミを吸い出すパイプ

水圧に耐える
くびれた形状



弱い雨のときに
浮いているゴミを流すスリット



自然と中心にゴミが集まる
すり鉢状の底形状

家庭用雨水タンク「Rain Harvest」の構造



輪中堤で浸水被害を軽減

「輪中堤」とは、集落や耕地といった特定の地域を洪水の氾濫から守るため、その周囲を囲むように整備された堤防のことです。

令和4年8月に南越前町の九頭竜川水系・鹿蒜川で発生した大雨被害（福井豪雨に次ぐ規模）を受け、県と町が連携し、令和4年度から令和8年度にかけて輪中堤の整備を進めています。

鹿蒜川流域においては、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防整備などの河川内だけではなく、輪中堤整備など、氾濫域を含めた流域全体で、あらゆる関係者が協働して水災害対策を行う「流域治水」の考え方に基いた、水害に強い地域づくりを推進しています。

輪中堤整備
(南今庄地区)



現在整備中の輪中堤（南越前町 南今庄地区）

生協初の水力発電所を見学

福井県では、小学生を対象に、環境に配慮した取り組みを行っている企業等の活動について学ぶイベントを実施しています。令和7年7月に開催した「C00P黒河川水力発電所（敦賀市）」の見学イベントには20名が参加し、環境にやさしい水力発電について理解を深めていました。子どもたちからは「発電のことをもっと知りたい」「みんなで一緒に見学できて楽しかった」といった声が寄せられました。

この水力発電所を管理する福井県民生活協同組合は、2030年までに事業活動による温室効果ガスの排出量を2013年度比で半減させることを目標としており、全国の生活協同組合の中で初めて水力発電所の運営に取り組んでいます。



発電所



取水ダム

発電所名	C00P黒河川水力発電所
発電所位置	福井県敦賀市山
発電方式	水路式
水車形式	横軸フランシス水車
発電電力量	3,130 MWh/年



見学風景



をダウンロードしていただきますすぐデコ活を始めよう！



Android



AppStore